

「伝える力」「食べる喜び」を支える言語聴覚士

東北公済病院リハビリテーションセンター

言葉と飲み込みの改善

「言語聴覚士」は、「話す・聞く・書く・読む」など言葉によるコミュニケーションに問題のある方、「食べる・飲む」といった摂食嚥下機能に障害のある方に、改善のための支援をする専門職です。病院だけでなく、保健福祉施設や教育機関などでも活躍しています。

東北公済病院リハビリテーションセンターは、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を行っており、回復期リハビリテーション病棟では365日体制を整えています。言語聴覚士は3人体制で職務に当たっています。

当院での言語聴覚療法の対象は失語症、構音障害(正しい発音ができない)、高次機能障害(脳の損傷による認知機能などの障害)、嚥下障害で、それらが複合している場合もあります。疾患



東北公済病院
リハビリテーションセンター
佐藤 仁子 主任言語聴覚士

は脳卒中が大半ですが、顔面神経まひやALS(筋萎縮性側索硬化症)、誤嚥性肺炎など多岐に渡っています。

訓練は1回につき20分から1時間程度です。失語症の場合は、絵カードを見て物の名前や動作を言葉に出し、文字の読み書きを練習します。構音障害の場合は口や舌を動かす運動と発音の練習、嚥下障害の場合は飲み込みを良くする運動をします。飲み込みが悪い原因を探り、食事の内容や姿勢についてご家族やスタッフに助言するのも私たちの役割です。



▲一人一人の症状や適性に合わせたリハビリ。手製の教材を使うことも